

令和5年12月八峰町議会定例会会議録（第2日）

令和5年12月14日（火曜日）

議事日程第2号

令和5年12月14日（木曜日）午前10時開議

第1 会議録署名議員の指名

第2 一般質問

出席議員（11人）

1番 笠原吉範	2番 伊藤一人	3番 奈良聡子
5番 水木壽保	6番 菊地 薫	7番 腰山良悦
8番 見上政子	9番 須藤正人	10番 門脇直樹
11番 山本優人	12番 皆川鉄也	

欠席議員（1人）

4番 芦崎達美 7番 腰山良悦（途中退席）

説明のため出席した者

町長	堀内満也	副町長	田村 正
教育長	鈴木洋一	総務課長	和平勇人
税務会計課長	成田拓也	企画財政課長	高杉泰治
福祉保健課長	石上義久	教育次長	山本節雄
学校教育課長	山内 章	産業振興課長	山本 望
農林振興課長	堀内和人	建設課長	浅田善孝
農業委員会事務局長	内山直光	生涯学習課長	今井利宏
あきた白神体験センター所長	菊地俊平	防災まちづくり室長	工藤善美

議会事務局職員出席者

議会事務局長 佐々木 高 議会事務局庶務係長 須藤 佳奈子

午前10時00分 開 議

○議長（皆川鉄也君） おはようございます。

4番芦崎達美君から体調不良による欠席届が、7番腰山良悦君からは葬儀に出席のため途中退席の届け出がなされております。ご報告いたします。

傍聴者の皆さんには、朝早くからご苦勞様でございます。よろしくお願いをいたします。

ただいまの出席議員数は11名です。定足数に達しておりますので、これより会議を開きます。

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、八峰町議会会議規則第124条の規定により、5番水木壽保君、6番菊地 薫君、8番見上政子さんの3名を指名いたします。

日程第2、一般質問を行います。

順番に発言を許します。1番笠原吉範君。

○1番（笠原吉範君） おはようございます。傍聴者の皆様におかれましては、朝早くからご苦勞様でございます。久々に傍聴席がにぎやかで、いささか緊張しておりますが、議席番号1番笠原吉範、通告に従いまして、本日は2問質問させていただきます。

まずはじめに、少子化対策・全国首長アンケートについてです。

共同通信社が今年7月、全国の都道府県知事と市町村長に行った少子化対策予算倍増方針のアンケート結果が9月に発表されました。全国では「評価する」が8%、「どちらかといえば評価する」が58%、四捨五入をして合わせて65%となっています。県内では「評価する」が堀内町長を含む3名、「どちらかといえば評価する」が15名で、合わせて72%が評価をしております。この結果は、政府の少子化対策の予算倍増方針に大きな影響を与えるものと思われまます。65%もの首長が評価したとなれば、政府は信任を得たとして、目新しい施策もないまま進んでいくのではないかと危惧をしているところです。

堀内町長は、このたびの対策や方針を評価するとしていますが、具体的にどのように評価をしたのかを伺います。

2問目は、半農半Xについてであります。

町では、リモートワークで本業を続けながら、町内で副業として農業や漁業に取り組む「半農半X」の実証実験を10月から12月に実施しています。

本来「半農半X」の定義とは、自分に必要な食料を自給しながら別の何かと組み合わせたライフスタイルであり、今、町が行っている短期のアルバイト的なものではありません。関係人口の創出や町のPRとしては評価できますが、今のところ移住・定住には繋がっていません。

そこで、12月の実証実験終了以降も「半農半X」に取り組んでいくのか。取り組むとすれば、いかに移住・定住に繋げていくかを伺います。

以上2点、よろしく回答をお願いいたします。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの1番議員の一般質問に対し、当局の答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） おはようございます。笠原議員のご質問にお答えいたします。

はじめに、「少子化対策・全国首長アンケートについて」であります。

このアンケートは、7月に全国の都道府県知事と市区町村長宛てにインターネットを通じて質問票が送付され、オンラインの回答フォームに直接入力する方式により収集された結果が、9月に公表されたものであります。

このたび、政府の少子化対策において、岸田総理が「次元の異なる対策」の策定を表明し、「こども未来戦略方針」を6月に閣議決定いたしました。

この方針は、「経済成長の実現」と「少子化対策」を車の両輪とし、「若者や子育て世代の所得を伸ばす」ことを主眼としており、大変重要な施策であると認識しております。また、人口減少が急速に進み、生産人口が減少することで、労働力並びに消費者不足が発生し、地域経済の減少が懸念されるなどの課題は、本町だけでなく、全国的な課題と捉えております。

こうしたことから、政府が掲げる具体的な「加速化プラン」として、今後3年間の集中取組期間において、実施事業にスピード感を持って対応し、全ての子ども・子育て世帯をライフステージに応じて切れ目ない支援体制の構築については、「評価する」との回答をしたところであります。

また、少子化の原因として未婚化・晩婚化の影響も大きいと言われております。若い世代の結婚や出産、子育てが行えないのは、ライフスタイルの多様化に加え、経済的な不安定さや子育て・教育に係る費用負担の重さなどが挙げられることから、政府の対策を最大限に活用しながら、若い世代が将来に希望を持てるよう、町としても様々な環境の整備などに取り組んでまいります。

次に、「半農半X」についてであります。

笠原議員ご指摘のとおり「半農半X」とは、自分たちが食べる分だけの「小さな農業」を行いながら自分の才能を活かした仕事をして、一定の生活費を得るというライフスタイルであり、令和3年度から県が実施した「あきた田園ライフ調査事業」は、都市部の社会人等を対象に農山漁村である八峰町に滞在し、自分の仕事を継続しながら農業を組み合わせる「半農半X体験」として2年間の実証事業を行ってきたところでありませぬ。

この事業では、2年間で県内外から13名が参加し、ネギや生薬の調整作業を行い、雇用主からも好評をいただくなど、一定の成果があったと認識しております。

こうしたことを踏まえ、町では、一次産業における人材確保を主目的として、関係人口の創出や観光PRなど新たな効果を期待しながら、「半農半X等人材確保事業」を行っているところでありませぬ。

このため、今年度の参加者には、昨年同様、ネギや生薬の調整作業に加え、新たに漁業にも従事していただいたほか、町としましても各種イベントを開催し、町の魅力を発信したところでありませぬが、将来的な移住・定住に向けた課題についても、一定程度把握できたところでありませぬ。

今後は、参加者と雇用主へのアンケート調査を行うとともに、事業の費用対効果や活用できる補助事業を模索しながら、新年度における事業実施の有無について検討してまいります。

○議長（皆川鉄也君） 1番議員、再質問ございませんか。1番笠原吉範君。

○1番（笠原吉範君） この1問目の、このアンケートについてですが、もし私が首長であったとしたら、私は「あまり評価しない」と回答すると思ひます。

まず少子化についてですが、我々この地方自治体に取り組んでいる少子化というのは、近隣自治体より手厚い住宅や子育て支援により数少ない若者世帯を呼び込むという施策で、これでは根本的な少子化対策にはならないものと思ひます。やはりこれは国レベルの問題で、静かなる有事とも言われるこの少子化ですから、国が本腰を上げて取り組まなければいけない問題だと思ひております。

そこで、私がその7月時点でアンケートであれば「あまり評価しない」と言ったのは、その時点で財源とか施策がほぼ出てない状況でのアンケートであります。まず財源を示してほしかったなということがあります。少子化の今回の柱は、児童手当など経済支援

の強化、学童保育や産後ケアなどの支援拡大、働き方改革の推進などとなっていますが、これはですね、いずれも既存の施策に予算を増大させるとか対象者を増やすとかいったことで目新しいことが何一つないんですよ。そこが問題だと思ってます。

で、予算もこの時点では示されておられませんでした。その中で65%もの首長さんが「評価する」とした。これはもう国にとっては本当に信任されたんだなということで、どんどん新しい施策も考えないまま進んでいくのではないかと私は心配しておりますが、その辺はいかがお考えでしょうか。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの1番議員の再質問に対し、当局の答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） 笠原議員の再質問にお答えいたしますけれども、確かに目新しいものはないというふうなご指摘でございましたけれども、私も3人の子どもを今正に育てている子育て世代真っ最中でございます。そうした私からいたしますと、既存であってもですね、その児童手当の拡充、あるいは高等教育の無償化、そういったところも議論しているところでございまして、私の中ではそういったところも含めて「評価する」としたところでございます。

一方で、笠原議員がおっしゃるとおりですね、目新しいものがないというのも、また一つ目玉がないともって言えることかなと思いますので、そういったところをもう少しですね皆様の意見を聞きながら、そういった意見を町としては国に対してしっかりと働きかけてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（皆川鉄也君） ほかに質問ございませんか。1番笠原吉範君。

○1番（笠原吉範君） 続いて財源のことについてちょっとお聞きしたいと思うんですけども、社会保障歳出削減で1.1兆円、既存の予算活用1.5兆円、支援金、いわゆる公的医療保険料に上乗せした1人平均500円、これで1兆円。で、首長アンケートの結果がここにありますが、少子化対策で望ましいと思う財源ということで、社会保障費の歳出削減、医療・介護など、これですね3位になってるのですね。19%です。この社会保障料に上乗せ、平均500円の上乗せですが、これは9%で一番低いんですよ。このアンケート結果がまず生かされていないんですよ。首長さんのあれでは、国、地方の行財政改革、公務員給与、議員定数の削減など、これがトップで21%です。政府は自分たちの身は削らないで、国民に負担を押しつけているわけです。こういう結果がですね出て

るわけですよ。これはやはりね、私は65%のその首長さんにもうちょっと真剣に考えて回答してもらいたかったなと。まあ真剣じゃないとは言いませんけども、こういった結果になるのが、政府はもう65%を後ろ立てにしてどんどん突き進んでいきますよ。私はそう思うんです。ですから、この65%の首長さんに少し反省をしてほしいという言い方はあまりよくないかもしれませんが、もうちょっと深く考えてほしかったなというふうに思うわけですが、その辺はいかがですか。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの再質問に対し、当局の答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） 財源につきましては、このアンケートを取った当時は確かまだ、まあ議員おっしゃるとおりですね、しっかりとしたものは示されてなかったなというところがございます。私も先ほど申したとおりですね、「評価する」としましたのは、やはりその既存の対応であってもそれを拡充してやっていきたいと思います、そして今までなかった動きとして、こうやって国が本腰を入れてやってくれているんだというところを見えたので私は「評価する」とした次第でございます。

一方で、財源の課題は現時点においてもなかなか議論が進んでいないところも一部ありますけれども、そういったところ、まあ予算に関しては国の話ですので一町長としてはなかなか発言する立場にはございませんけれども、そういったところも国の動きしっかりと注視して今後対応を検討したいというふうに考えております。

○議長（皆川鉄也君） 1番議員、ほかに質問ございませんか。1番笠原吉範君。

○1番（笠原吉範君） 町長がおっしゃるとおり国の施策でありますので、ここで議論してどうなるというものではないですが、私が言いたいのは、この65%が問題だというふうに言いたいんです。この65%の首長さんたちは本当にこれで今良かったと思ってるのかどうか。それすら私はそんなふうに思いますよ。今の政府の動きを見てみると。もう少子化対策じゃないところで何かいろいろ議論していて、時々新聞にこの少子化対策出てきますけど、とても、何と言いますかね、国民目線でないと。自分たちの身を切らないで全て財源を国民に押しつけるというこういう姿勢ですよ、今のこの結果を見てもみますと。だから65%の首長さんたちが本当に今、後悔している人もいるんじゃないかなという気がしております、私は。その辺はもう一度答弁をお願いします。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの再質問に対し、当局の答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） なかなかその65%、また県内で言うと72%ですかね、そういったところの首長が「評価する」としたところがございますけれども、おっしゃるとおり

最近は報道等でですね、この少子化以外の話で盛り上がってるようでございますけれども、いずれこのアンケート答えた当時はですね、私はそういった判断をしたというところでございますので、そういったところをご理解いただければと思います。

○議長（皆川鉄也君） ほかに再質問ございませんか。

○1番（笠原吉範君） 1問目はありません。

○議長（皆川鉄也君） これで1問目の質問を終わります。

次に、2問目の質問、再質問ございませんか。1番笠原吉範君。

○1番（笠原吉範君） 半農半Xについて次に伺いますが、私が外からこの半農半Xを見ている限りはですね、いわゆる農家のお手伝い、まあ本当お手伝い程度で、いわゆる農家は今、人手不足で困っていますけども、人手不足対策にはなっていないですね。で、ある半農半Xを受け入れた農家さんに話聞きました。2週間ですから、やっとなれたなと思ったらいなくなると。最初まず手取り足取り仕事を教えるわけですね。で、おお、やっとなれてきたかなっていうと、はい2週間ですと。これではどうしようもないと。しかもそれで仕事があまりできない、まあ最初の三日四日、それも、でも時給はちゃんと払わなきゃいけない。農家としては受け入れていいものかどうかという話をしている方がいらっしやいました。私もそう思います。また再び訪れてまた手伝ってもらえればいいんですけども、なかなかそうはいかないようで、ちょっと検索して調べてみたら半農半Xで全国回ってるような人もいますね。ですから何かこう旅行気分なのかなというような気もしてならないんですが、まあ来年度から取り組むか取り組まないかはこれからの検討ということにはなると思いますけども、その報道によると9月28日現在30人以上の方が応募されたということで、まあさっきの町長の答弁で2年間で13名だと。この応募があった中から13名選んだその選んだ方を、どのような基準で選んだのかを伺います。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの質問に対し、当局の答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） 笠原議員の再質問にお答えいたします。

先ほど私答弁の中で13名と申し上げましたけども、これは昨年と一昨年、県が事業をしていた時の13名でございます。新聞報道のあった30名とはまた違う人数でございます。そういったところをご理解して、で、13名というのはですね、こちらが選んだわけではなくて、2年間、昨年度までの2年間はやりたいと手を挙げた方にやっていただいたっていうところでございますので、決してこちらが選んだわけではござい

せん。

- 議長（皆川鉄也君） 1 番議員、ほかに質問ございませんか。1 番笠原吉範君。
- 1 番（笠原吉範君） 半農半 X の方が町に入ると旅費が支給され、無料で宿泊ができて、時給がもらえて、町職員や協力隊が送り迎えをしてという本当に至れり尽くせりという状況で、費用対効果といいますか、それはさっき費用対効果という話、町長からも出ましたが、今のところ費用対効果にすらなっていないと私は思っております。ですから半農半 X は反対するものではありませんけれども、人選とか在り方というのを今一度、もし来年度も取り組むのであれば、今一度そこら辺を精査していただきたいというふうに思いますが、いかがでしょうか。
- 議長（皆川鉄也君） ただいまの再質問に対し、当局の答弁を求めます。堀内町長。
- 町長（堀内満也君） 先ほど答弁の中でも申し上げましたとおり、多くの課題があると思っております。そしてまた一部報道でもあったようにですね、参加者の中からの意見もだいぶ分かってきましたし、また改めて雇用主側にもですねアンケートを行って、どういった状況がいいのかというところを調査しながらやっていきたいなと思っておりますけれども、いずれまた来年度の話になりますと、これから予算査定が始まるというところがございますので、その実施の有無につきましてはそういったところも踏まえてしっかりと検討していきたいというふうに思っております。
- 議長（皆川鉄也君） ほかに質問ございませんか。1 番笠原吉範君。
- 1 番（笠原吉範君） その町外から若い方が八峰町内に出入りするというのは、これは私は関係人口の創出の上では非常に評価をしているところであります。で、さっきも言ったように町の PR にもかなりなっているのかなとは思いますが、もう少しですね在り方を検討して、私は来年度もやっていただきたいという立場であります。ただ、今までのようじゃなくて、しっかりとした人選をして、町にまた再び訪れてくれたりですね旅行に来てくれたり、移住・定住を考えたりするようなそういった人材に来ていただきたいという思いでこのお話をしているところです。今一度答弁をお願いします。
- 議長（皆川鉄也君） ただいまの質問に対し、当局の答弁を求めます。堀内町長。
- 町長（堀内満也君） ちょっと繰り返しになる部分あるかもしれませんが、いずれ今回やってきた事業の中では、どうしても全てが無料だということがございます。そしてまた大きな目的がその一次産業の人手不足対策といったところがございますので、なかなかまあ我々も移住・定住に繋がれば一番いいんですけども、ちょっとそこまでは求

めてなかったというところもございます。そしてまた参加者の中からは、いや別にその宿泊費だったら別に無料にしなくていいんじゃないかとか、あるいは先ほど農家さんがおっしゃったような2週間じゃ短いとか、そういったところが相当数出てきておりますので、まあ仮にやるとすればですけども、そういったところをしっかりと見直しして事業展開すべきかなというふうに思っております。

まあいずれにしましても来年度の話ですので、そういったところも含めてしっかりと検討していきたいというふうに考えております。

○議長（皆川鉄也君） 1番議員、ほかに質問ございませんか。1番笠原吉範君。

○1番（笠原吉範君） これで最後にしたいと思いますが、来年度やるかやらないか、まだはっきりとはしてないということらしいですが、私は是非取り組んでいただきたいというふうに思います。要はやり方だと思いますので、関係人口をつくって町がにぎわうことは非常にいいことだと思いますので、そのやり方を今のやり方を少し変えた形でやっていただきたいということをお話をして、私の一般質問を終わりたいと思います。

答弁は要りません。

○議長（皆川鉄也君） これで1番議員の一般質問を終了します。